

防災教育の機会としての京都への修学旅行を用いる試み(1) Learning about disasters in excursion to Kyoto, 1

加藤 護^{1*}
Mamoru Kato^{1*}

¹ 京大院人間・環境学
¹GSHE, Kyoto Univ.

2011年以降学校教育の場において防災教育の機会を持つことの重要性が指摘されている。災害は人文科学、社会科学、および自然科学のすべての視点から検討することが可能な複雑な事象である。このため特定の科目の範囲内で防災について考えることは必ずしも望ましくない。その意味で災害教育は総合教育の応用に位置すると考えられる。

個々の災害はその場所のローカルな要因によって支配されることが多い。そのため過去の災害の事例から学ぶ場合にはそのローカルな要因についても合わせて知ることが重要とある。このことはそれぞれの都市に合わせて防災教育の内容をテーラーメイドすることの必要性を示唆するが、他方それは防災教育プログラム作成の総コストを上げることを意味する。

1つの防災教育プログラムを多くの機会を用いることはコスト面のみならずそのプログラムの完成度を高めるためにも重要である。そこで本発表は京都への修学旅行を防災教育の機会として活用する可能性について検討する。京都は修学旅行の目的地として利用されることが多い都市である。これには京都が長い歴史を持つことで日本史について学ぶ機会が提供となるという背景が考えられる。日本の地球科学的な条件を考えるとある都市が長い歴史を持つということはその都市が多くの災害を経験していることを意味する。その「歴史」の上に災害の視点を追加することにより観光や研修の旅行に災害教育の意味合いを付加することが可能になると考えられる。

京都市内で修学旅行生が多く訪問する観光地の多くは過去の自然災害と関わりを持つスポットである。一般的な観光ガイドに災害の視点を付加することで京都への修学旅行を防災について考えるきっかけとすることが可能であるか。本発表では京都における地震災害に着目し、北野天満宮を例にその可能性について検討する。

キーワード: 防災教育
Keywords: disaster education